

校長室から応援メッセージ（2）

令和4年6月17日（金）

「未来の自分を励ますように」

皆さん、こんにちは。いきなり44年前になりますが、この年は共通テストの先駆けとなる共通一次試験の実施を翌年に控えた、従来の入試最後の年です。国立大学は日程を二つのグループに分け、全大学が独自に入試を行っていました。高校3年生の私は国立大学二校に出願し、私立大学は受験せず、卒業式も欠席。背水の陣で臨みました。

そして背水の陣も崩れることがあり、浪人生となりました。長い時の流れが苦しかった日々を美しい思い出に変えてしまったという面はあるかもしれませんが、予備校時代は落ち着いた気持ちで過ごしていたと思います。気持ちは机の上に向けていればいい、このことを自分が求め、周りも認めている、そういう状況が気に入っていました。

私の人生どうなるの？と心配してどうなるものでもないし、先走る気持ちは更なる不安と焦りにつながるだけです。皆さんもよくわかっている、それでもつい先を考えてしまうものです。これは人間の素晴らしい能力ですが、余計な能力でもあります。人生出たところ勝負。来春の全ての結果を潔く受け入れる、今から覚悟を決めてください。

ここに一冊の本があって自分の生涯の出来事が全て書かれているとします。自分の人生は、この本を1ページずつめくっていくこと。でも現時点で書かれているのは昨日までのことだけです。明日からのことは何も書かれていません。しかし、やがて振り返った時、そこに書かれている内容は、自分の人生における宿命となっています。

私たちは宿命を作り上げていくのです。これは志望校合格かどうかという近い未来だけでなく人生全体の話です。今のあなたが時を超えて未来のあなたを励ます、そういう意識で今を懸命に生きる、その姿は未来に対する一番の備えになります。受験勉強は受験のためにするものではありません。今を懸命に生きる姿そのものであるはずです。ところで私の今を懸命に生きる姿は、皆さんをそっと見守ることです。心を込めて祈りを込めて見守ります。